

# 62選挙区で勝利

甘利幹事長ら自民幹部続々落選

小選挙区で落選した自民党の  
主な閣僚や役員(元職名を付)

秋田2区	金田勝年(比)	元法相、元衆院予算委員長
千葉8区	桜田義孝(比)	元五輪相
東京5区	若宮健嗣(比)	万博相
東京8区	石原伸晃	元幹事長、元経再相
神奈川1区	松本純※	元国家公安委員長、元防災相
神奈川13区	甘利明(比)	幹事長、元経再相
静岡8区	塩谷立(比)	元総務会長、元文科相
香川1区	平井卓也(比)	元デジタル相、元IT相
福岡5区	原田義昭	元環境相、元文科副相
福岡10区	山本幸三	元地方創生相、元経産副相

(比)は、比例区での復活当選。

※松本氏は自民党を離党し、現在は無所属。

今回の総選挙の特徴は、市民と野党の共闘が多くの選挙区で自民党を“土俵際”まで追い詰めたことです。野党は候補者を一本化した62小選挙区で勝利。その象徴が神奈川13区、甘利

明・自民党幹事長(辞任)の落選です。新人の野党候補が前回票を倍加させ競り勝ちました。ほかにも現職や元職の閣僚経験者、党幹部が続々と野党統一候補に競り負け、落選しています。

## 32選挙区で自民に肉薄

自民党の議席は261ですが、少ない選挙区でぎりぎりでした。自民党候補が野党統一候補に5000票の僅差で勝った選挙区は16。1万票未滿を含めると32にも。これらの選挙区で

野党候補がすべて競り勝っていたら、自民党は単独過半数割れしていたことになり。[薄氷の1強]([読売]2日付)です。野党共闘は、あと一歩まで自民党を追い詰めました。

## 改憲許さぬ共闘さらに

ねらいは9条



総選挙後、自民、公明、維新が改憲をあまり、教育無償化や環境権を口実にしています。必要なのは、憲法をどうするか議論でなく、教育無償化へ政治をどう動かすか、石炭火力発電所や原発再稼働、新增設をどう止めるかです。

改憲勢力の狙う本丸は憲法9条。市民と野党の共闘は戦争を起こしてはならないという思いから始まりました。改憲を許さないためにも、さらに大きな市民と野党の共闘をすすめましょう。

## 共闘の大義・魅力伝えきれず

課題も「維新」伸長の一因に

野党共闘は課題も残しました。特に、野党が力を合わせて、共通政策、政権協力の合意という共闘の大義、共闘によって生まれうる新しい政治の魅力を、さまざまな攻撃を打ち破って広い国民に伝えきる点で十分とは言えませんでした。これらが、自公の補完勢力=「日本維新の

会」の伸長という事態を招いた一因にもなりました。

御厨(みくりや)貴・東大名誉教授は「与党と一対一の構図をつくって国民に選んでもらうこと自体は間違っていない」「結果が出なかったからといって、共闘をつぶしては駄目だ」(「東京」2日付)と述べています。